

インド弁護士協会、イベルメクチンをめぐって WHO の科学者を提訴

by Justus R. Hope, MD 2021年6月7日 更新 2021年9月8日 8

(原文英語 日本語に自動翻訳)



インド弁護士協会（IBA）は5月25日、WHOのチーフサイエンティストである Soumya Swaminathan 博士（スワミナサン博士）を、イベルメクチンについて誤解を与えたことでインド国民を死に至らしめたとして、71項目の準備書面で告発しました。

ポイント56には、"2021年5月10日のイベルメクチンの使用に反対するあなたの誤解を招くようなツイートは、タミルナドゥ州が COVID-19 患者の治療のためにイベルメクチンを指示したわずか1日後の 2021年5月11日に、プロトコルからイベルメクチンを取り下げる効果をもたらしたこと"とあります。

with Rajiv Malhotra
Soumya Swaminathan
@doctorsoumya

Safety and efficacy are important when using any drug for a new indication. @WHO recommends against the use of ivermectin for #COVID19 except within clinical trials

Merck Statement on Ivermectin use During the COVID-19 Pandemic - Merck.com

ment against treatments >

<https://science.thewire.in/health/tn-revises-protocols-leaves-out-Ivermectin-for-covid-patients/>

インド弁護士協会の主席弁護士である Dipali Ojha 氏は、スワミナサン博士の作為・不作為の行為によって引き起こされた「それぞれの死に対して」刑事訴追を行うと脅しました。準備書面では、スワミナサン博士が保健当局としての立場を利用して、利益を生むワクチン産業のために EUA を維持するという特別な利害関係者のアジェンダを推進したことによる不正行為を非難しています。

<https://indianbarassociation.in/press-releases/>

具体的には、COVID-19 の予防と治療の両方においてイベルメクチンが極めて有効であることを示す膨大な臨床データが存在するにもかかわらず、イベルメクチンに対する偽情報キャンペーンを行い、社会的および主要なメディアでイベルメクチンの使用を控えるよう不当に影響を与えたことなどが挙げられます。

特に、インド弁護士の準備書面では、10 人のメンバーからなる「Front Line COVID-19 Critical Care Alliance (FLCCC)」グループと、WHO のコンサルタントでメタ分析の専門家である Tess Lawrie 博士が率いる 65 人のメンバーからなる「British Ivermectin Recommendation Development (BIRD)」パネルがまとめた査読済みの出版物と証拠に言及しています。

この準備書面では、米国連邦検事のラルフ C. ロリゴ氏がニューヨークの病院で行った、瀕死の COVID 患者にイベルメクチンを投与するために裁判所の命令が必要だった事例を紹介しています。そのような昏睡状態の患者の複数の事例では、裁判所の命令によるイベルメクチンの投与後、患者は回復しました。また、インド弁護士会は、本フォーラム「The Desert Review」に掲載された過去の記事を引用しています。

Ojha 弁護人は、ポイント 60 と 61 で、WHO とスワミナサン博士が、マスク着用からウイルスの起源について中国を免責することまで、パンデミックの間ずっとインド国民を誤解させ、誘導していたと非難した。

「捏造された事実を『科学的アプローチ』として提示するという、あなたの不条理で恣意的に誤ったアプローチに、世界は徐々に目を覚ましつつあります。WHO は「すべてを知っている」ように自分を誇示しているが、それは虚栄心の強い皇帝が新しい服を着ているようなもので、全世界の人々は今までに皇帝には服がないことに気づいている」。

この準備書面では、WHO が大規模な偽情報キャンペーンに加担していると非難しています。ポイント 61 には、"FLCCC と BIRD は、WHO、NIH、CDC、そして米国 FDA のような規制当局のような、製薬会社のロビーや強力な医療関係者からの情報操作、抵抗、非難という課題に取り組むために、強大な力を構築するという模範的な勇気を示した"とあります。

スワミナサン博士は、ワクチンや製薬業界のために EUA を維持するためにイベルメクチンの信用を落とした悪行を指摘されました。52 点目は、"あなたは、自分の目的を達成するために、意図的に人の死を選んだようであり、これはあなたに対する刑事訴追の十分な根拠である"と書かれています。

インド弁護士会は 2021 年 6 月 5 日、スワミナサン博士が今では有名になったツイートを削除したことをウェブサイトにアップしました。彼らは、"しかし、ツイートを削除しても、インド弁護士会の積極的な支援を受けて市民が開始する刑事訴追から、Soumya Swaminathan 博士とその関係者を救うことはできません。" と書いています。

<https://indianbarassociation.in/blogs-iba/>

今回のアップデートでは、Dipali Ojha 弁護人が、計画されたアクションの性質を明らかにしました。

"インド弁護士協会は、イベルメクチンが有効な COVID-19 患者の治療を妨害したために死亡した各人を殺害したとして、Soumya Swaminathan 博士らに対し、インド刑法第 302 条等に基づく措置をとるよう警告しました。インド刑法第 302 条に基づく処罰は、死刑または無期懲役である。"

さらに、「この通知を受け取った後、Soumya Swaminathan 博士は逆上してツイートを削除しました」と書きました。これで WHO が COVID-19 に対してイベルメクチンを推奨していないことが証明されました。この WHO の不誠実さと、Soumya Swaminathan 博士のツイートを削除した行為は、世界中の市民に目撃され、このニュースはソーシャルメディアで大きく取り上げられました。スミヤ・スワミナサン博士は、このツイートを削除することで、彼女の悪意を証明したのです。"

イベルメクチンを採用した地域では、採用しなかった地域とは対照的に、インドの致命的な第二次サージに対するイベルメクチンの有効性が世界中で目撃されました。

中でも、デリー、ウッタルプラデシュ、ウッタラカンド、ゴアのイベルメクチン地域では、それぞれ 98%、97%、94%、86% の減少となりました。一方、タミル・ナードゥ州はイベルメクチンを使用しませんでした。その結果、タミルナドゥ州の感染者数は急増し、インドで最も多い感染者数となりました。タミル・ナードゥ州の死者数は 10 倍に増えました。
https://www.thedesertreview.com/news/national/ivermectin-obliterates-97-percent-of-delhi-cases/article_6a3be6b2-c31f-11eb-836d-2722d2325a08.html

タミルナドゥ州は、スワミナサン博士が 5 月 10 日にソーシャルメディアでツイートしたイベルメクチンを推奨した翌日に、スワミナサン博士の助言を公に信頼して、当初選択したイベルメクチンを撤回しました。その結果、タミルナドゥ州では COVID による死亡や病気が急増し、現在も続いています。

インド弁護士会は、汚職を訴え、命を救うために、公衆衛生局 (PHA) に対する画期的な裁判をあえて起こしました。米国の裁判所が、イベルメクチンの投与を受ける患者の権利を確保するために、命を救う力となったように、インドの裁判所も同じことをしています。

公衆衛生局員を刑事訴追することは、死をもたらす偽情報キャンペーンが結果をもたらすという強力なシグナルを送ることになる。もしかしたら、この道筋が最終的に、命を救うために再利用される薬の使用に関する情報操作と検閲の束縛を解くことになるかもしれません。また、医療と法律の両面でインドの例に倣う国が出てくるかもしれません。

ジャスタス・R・ホープ、MD

Daily New Cases in India

